

平成 30 年の仕事始め式に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

皆さん方にはそれぞれに新春の幕開けを新たな決意をもってお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

また、大久保堅太議長におかれましては、新年早々のお忙しい中にも拘わりませず本日の仕事始め式にご臨席いただき誠に有り難うございます。

どうか本年も引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年は戌年です。

犬という動物は、人間の営みに古くから深く関わっていることは皆さんご承知の通りです。現在でも警察犬や盲導犬、さらには有害鳥獣などを捕獲する猟犬などその特性を活かして人間社会の課題解決に大きく寄与しています。また、洋の東西を問わず文学や映画の題材としてもいくつもの感動的な場面で登場するなど名脇役でもあり、人間生活に密着したパートナーとしての安らぎも与えてくれると同時に、有事の時には一変して「番犬」となって守ってもあります。

その人間に対する忠実な性格であることから、かの有名な「忠犬ハチ公」に代表される人々のための有益な動物といえるかと思えます。

私たちは犬ではありませんが、市民の皆様にご信頼され役に立つ存在であり続けたいということを経年の幕開けに際し、皆さんとともにその決意を確認しておきたいと思えます。

さて本年は、第二次平戸市総合計画の初年度であり、今後 10 年間の将来像を描く上での重要なスタートとなります。これは、平戸市未来創造羅針盤というタイトルで表現されるごとく、これから始まる険しく予測困難な航海の幕開けと位置づけられることとなります。

振り返れば、過去の 10 年間に於いて平戸市は様々な分野で差し迫った課題を解決に導き、また難関を乗り越え、いくつもの実績を収めることができました。しかし一方で、まだまだ足りなかったことや成し遂げられなかったことも少なからず存在しており、このまま現状に甘んじることは単に「自己満足」に過ぎないことでもあります。

これからの 10 年間に於いて、そのまま現状の考え方や体制で対応できるなどと考えるはなりません。いくつもの際立った賞賛すべき実績も、それが持続可能性に裏付けられたものでなければ将来にわたってその果実を分かち合うことにはならないからであります。

昨年、平戸商工会議所女性会主催で開催された講演会に講師としてお越しいただいた日本総研の藻谷浩介さんは、『今だけ、ここだけ、自分だけ』の考えが地域を滅ぼす」と警鐘を鳴らされました。まさに行政もまちづくりも、その瞬間において楽しく有意義で価値あるものを体現できたとしても、将来にわたって継続されなければ、それは単なる「打ち上げ花火」にしかありません。

今年の幕開けから始まろうとしている各種事業も、新年度から予定されている事業についても、それらがしっかりとした担い手の意欲を携えて「自立した持続可能な主体」として存在し続けることができなければ意味がありませんし、その継続した実績によって新たな波及効果を生み出し、人を惹きつけるものになるのだと確信します。

今年はそうした覚悟を持った一年にしたいと思っておりますし、また世界遺産登録がいよいよ実現することになる記念すべき年になることも期待されます。一方で平戸市生涯学習都市宣言から10周年の節目を迎えることになり、大島村神浦地区の重要伝統的建造物群の指定10周年の節目にもなります。また期せずして田平天主堂が建てられて丁度100周年、これに加え平戸城については再築城から300周年、さらには安満岳に鎮座する白山比延神社創建1300年の節目にもなります。こうした様々な場面で平戸の魅力や価値を発信できる絶好の機会に恵まれることが約束されています。

時代の流れをいち早く察知できるような犬にも負けない嗅覚をもって、こうした平戸にしかないチャンスを手繰り寄せ、闘犬のごとく勇猛果敢にエネルギーに各種事業に取り組んでまいりましょう。

それから1月末にはお隣の松浦市の市長選挙と市議会議員選挙、ならびに2月には県知事選挙及び県議会議員松浦選挙区の補欠選挙が執行されます。

近隣の自治体とのチームワークや県政との緊密な連携はこれからの行政運営には欠かすことができませんし、相変わらず自主財源に乏しい自治体として国や県とのパイプは重要です。新しく選ばれる首長や議員各位とも情報共有を図り、県北全体の底上げや発展につながるようしっかりと働きかけてまいりたいと思います。

結びになりますが、本年が平戸市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、併せて職員各位の更なるご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

終わります。

平成 30 年 1 月 4 日

平戸市長 黒田 成彦